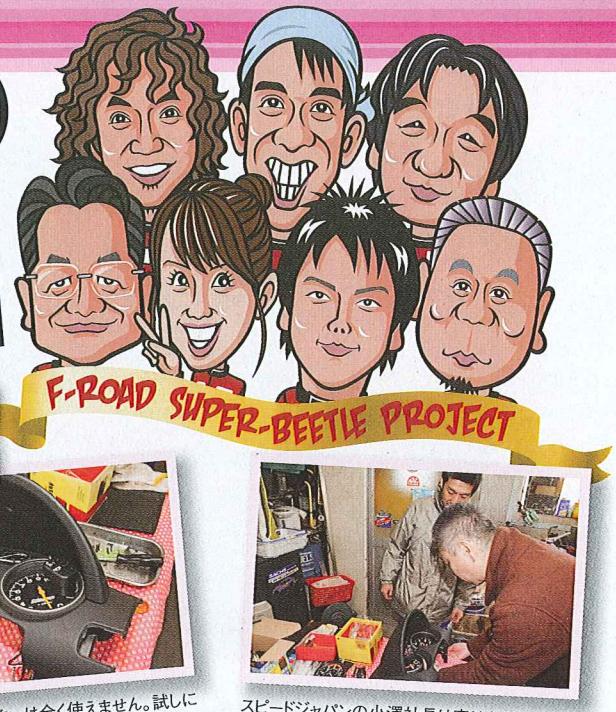


F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT 2nd SEASON

9Nポロのインパネ移植

ピンビープロジェクト・
セカンドシーズン!

Vol.20



暖かくなってきたので、ぼちぼち本格的に作業開始といきますか。

厄介な作業なので後回しにしていた、9Nポロのインパネ移植。

想像以上に手強い作業となっています。

方向転換も視野に入れようかなあ。

文●半谷範一 撮影●森口信之

取材協力●ベストインポートサービス TEL:048-282-6119 http://www.vw-bis.co.jp

スピードジャパン TEL:03-3555-8865 http://www.speedjapan.co.jp/

日栄自動車商会 TEL:024-534-9680 http://auto.jocar.jp/nichiei/



もちろんポロのメーターは全く使えません。試してみると空冷VWの定番であるオートメーター製のメーターを合わせてみたらご覧のようにピッタリ

スピードジャパンの小澤社長は実はクルマイジリが大好きというタイプ。今でこそパーツの輸入を仕事にしていますが、元々は完全に趣味でした。



幸いなことに、空冷ビートルの室内は現代のクルマからすればかなり狭くなっています。そこで、他のクルマのインパネでも、ビートルの室内幅に合わせて切れば(少なくとも理屈の上では)収めることができることになります。もちろんステアリングコラムやメーター類の位置や角度など、様々な問題がついて回ることは確かなので、実際にはひと筋縄で何となるような作業でないことはだけは確実。果たしてピンビーにポロのインパネは付くのか?

さて、今月のピンビープロジェクトは、先月号からの続きでポロからインストルメントパネルを移植するという作業を実施することにしました。実は最近、この企画を読んで下さった何人の方から、「空冷のビートルには、ポロのインパネが簡単に移植できるんですか?」というご質問をいただきました。で、まず始めにその回答をさせていただくと……全然簡単じゃありません!

元々全然違うクルマなんで、マトモに考えれば移植は不可能と考える方が普通だと思います。まあ、ピンビーはフロントにカーブド・ウインドウを採用した1303なんで、フラットなインパネの1200・1302系よりは移植できる可能性は高いでしようが、それでも互換性のあるパーツなんか全く、本当にただひとつもありませんし、メカ的にも全然違っています。

にもかかわらず、このピンビーでそんな面倒なことをやってみようと思ったのは、海外では1303に他のクルマからインパネを移植した例がいくつかかるのとせつかくなんで日本ではあまり前例がないような面白いネタが欲しかったからです。

さて、今月のピンビープロジェクト

【かな～り手強いインパネ移植作業】



【ブレーキパッドの交換】



**価格が安くダストも少ない
効きも悪くないので
DIFORZAのパッドを装着**

ダッシュ交換だけでは先月号と代わり映えしないので、今月は細かい作業としてフロントのブレーキパッド交換も実施することにしました。以前にも書いた通り、アイドーラーズの耐久レースでパッドを全部使い切ってしまったので、仮に中古のパッドを装着していましたが、今回は新品のパッドに交換です。今回使用したのはこのDIFORZA。価格が安くダストが少なく、効きも悪くないということなので試してみることにしました。いずれにしても車両重量の軽いビートルではあまりブレーキに負担も掛からない=熱も上がらないので、街乗りに使用する限りでは別に高性能なパッドは必要ないんですけどね。せっかくなのでピンの錆落としをしたり、エア抜きをしたりといった作業も実施。念のためブレーキ泣きを防止するために、パッドの面取りをしてグリースも塗っておきました。

言うは易し行は難し の典型的な インパネの移植作業

上方に空間が空いているのであまり閉所感はありませんが、空冷ビートルの室内幅は現代のクルマと比較すると非常に狭く、インパネの前後の長さも短くなっています。というわけで、インパネの左右と前部を切り詰めれば、理屈の上では色々なクルマのインパネ(というかダッシュボード)を移植することができるというわけです。もちろん現実には各種のスイッチやメーター、ステアリングの位置などの関係で、移植しても実際に使用できるクルマは限られてしまいますけれどね。このボロの場合、ダッシュの素材の上にカバーが掛かっているような構造になっていました。そこで、ダッシュの部分だけをビートルの室内の形状に合わせて切り取り、あまたのカバーの部分の端は裏側へと折り曲げてステープラーと接着で固定する!ことにしました。もちろんボロのメーター類は構造がまるで異なるので使用できません。そこで今回は試しにアメリカのオートメーター製のスピードメーター／タコメーターを当てはめてみたところ、ご覧のようほぼピッタリの大きさでした。もちろん単なる偶然です。ビートルとボロとではダッシュの取り付け角度が異なっているのですが、取り付けてみると不思議と違和感がありません。